

平成 31 年 3 月 1 日

嬉野市議会  
議長 田中 政司 様

議会広報編集特別委員会  
委員長 宮崎 良平

## 議会広報編集特別委員会報告書

平成 30 年 12 月議会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会  
会議規則第 107 条の規定により報告する。

### 付託事件名 「議会広報の編集発行に係る調査」

#### 調査の理由

かねてから全国的に高い評価をいただいている当市の議会だよりではあるが、  
デザインや内容の更なる充実により、これまでより多くの市民が手に取りたい  
と思えるような議会だよりにするため、埼玉県伊奈町議会と深谷市議会にて  
調査研究をおこなった。

調査の概要 「伊奈町 議会だよりの基本姿勢および編集について」

調査日 平成 31 年 2 月 12 日

調査場所 埼玉県伊奈町議会

対応者 伊奈町議会議員 副議長 大沢 淳 氏  
議会広報委員会委員長 中原 敦子 氏  
副委員長 五味 雅美 氏

## ◇ 伊奈町の概要

埼玉県北足立郡伊奈町は埼玉県の中南西部、都心から 40 k m 圏内という首都近郊に位置しており、人口約 4 万 5 千人の町である。昭和 58 年の東北・上越両新幹線の開業にあわせ、その高架を利用した埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）が開通し、町内に 5 つの駅が誕生し、その駅周辺の土地区画整理事業により優良な住宅地が整備され、全国的に人口減少に頭を悩ます自治体が多い中、県内でも有数の人口増加地区となっている町である。

## ◇ 伊奈町議会だよりの概要

2010 年までは一般質問の原稿および表紙の写真を用意する程度で原稿作成や編集作業などは議会事務局が行っていたが、2011 年以降、議会事務局の補助を得ながら「議会だより編集委員会」が中心となり、すべての原稿、レイアウト、写真などを委員会で行うようになり、2016 年、「議会広報委員会」と改称しそれまで「議会だより」の発行に限られていたものを、議会報告会の開催、SNS の活用など、議会広報活動全般を担っている。

### 【基本姿勢】

本会議や委員会での質疑、討論、一般質問など議会の仕事や内容を知らせることを重視し、住民が理解しやすく分かりやすい表現に努めることを基本姿勢として、議会定例会ごとに年 4 回発行されている。

### 【編集体制】

編集体制は現在議員 7 名で構成されており、定数の定めはなく、各会派から一人ずつ加わることを原則としている。

会派による報告、一般質問の原稿等の取りまとめやチェック等は、各会派選出の広報委員が行うことになっている。

### 【紙面でのこだわり】

表紙は町民に親しまれるものであることを目標に、関心を高めるためシリーズ化している。現在のテーマは「縁の下の力持ち」で、町のために頑張っている人を紹介している。

終面はクイズ（クロスワードパズル）を毎回作成して、読者から葉書での回答を募集し、正解者に抽選で景品を贈る。商品は観光協会等のグッズで、商品の写真も載せて関心を引くようにしてあり、また回答葉書に記載されて

いるコメントを「読者の声」として掲載している。

## ◇ 委員会の意見

冒頭の伊奈町議会広報委員長からの、なぜ発展途中である伊奈町議会に？という言葉から研修会が始まったように、熟成度、完成度という視点で見ると、当市の議会だより作成における全議員の議会だよりに対する思い、また編集体制等の安定感と意識の高さは素晴らしいものがあると自負するところではあるが、今回の伊奈町議会における視察研修を通じて、まだまだ学ぶことが多くあることに気づかされた研修であった。特に、表紙及び終面のこだわりと着目点には瞠目した。

現表紙においては、「縁の下の力持ち」というテーマのもと、シリーズ化し、普段なかなか目にすることはないが、地域に貢献されている仕事や人にクローズアップし、写真と仕事内容が掲載されていることに、住民との近さと温かさを感じた。

また、終面においては、クイズ（クロスワードパズル）を毎回作成することもさることながら、その回答葉書に記載されているコメントを「読者の声」として掲載できるだけでなく、生の声を頂戴できることで町民との双方向の繋がりを直接感じるができる仕組みの確立に驚嘆した。手探りではあるが、昨年12月よりフェイスブックでの広報活動もされており、今後参考にさせていただきたいと感じた。

この伊奈町議会だよりの仕組みは、我々議会広報編集特別委員会にとって大きな収穫であり、今後の編集活動に役立てられるよう努めていきたい。

調査の概要	「深谷市 議会だよりの基本姿勢および編集について」		
調査日	平成 31 年 2 月 13 日		
調査場所	埼玉県深谷市議会		
対応者	深谷市議会議員	議会だより編集委員長	石川 克政 氏
		副委員長	角田 義徳 氏
		編集委員	五間くみ子 氏
			鈴木 三男 氏
			富田 勝 氏
			為谷 剛 氏
			田口 英夫 氏

#### ◇ 深谷市の概要

現在の埼玉県深谷市は埼玉県の北部、都心から 70 k m 圏に位置しており、平成 1 8 年に深谷市、岡部町、川本町、花園町が一つになり誕生した。人口約 14 万 4 千人の市である。かつては繭、生糸の集散地として栄えたが、現在では近郊農業が中心で、特に深谷ねぎが有名である。近年は東部のほうを中心に工業都市としても発展している。また、日本近代実業界の最高指導者、「日本資本主義の父」ともいわれる渋沢栄一が生まれた地である。

#### ◇ 深谷市議会だよりの概要

魅せる議会だよりをキーワードに市民目線で作成することに心がけている。定期的に近隣市町との勉強会などに参加し、また出版社等への研修でスキルを磨いている。

##### 【基本姿勢】

「市民目線で議会だよりを作成する」というコンセプトのもと、市民の皆さんに分かりやすく、読みやすい議会だよりを目指し、文章を難しくしない。また、市報と議会広報紙の違いを明確にするため、議会において議決されるまでのプロセスを重視している。議会定例会ごとに年 4 回発行されている。

### 【編集体制】

編集体制は各常任委員会、議会運営委員会から2名ずつの計8名で構成され、そこに事務局2名、また編集委員会に印刷業者の出席を求め、編集委員と業者の打ち合わせで、レイアウトを決めている。

### 【紙面でのこだわり】

表紙は「深谷市の魅力」をテーマに季節ごとのイベント、魅力ある場所などをカメラマンに委託し作成している。色彩の美しさが魅力である。

終面は、地域住民や子供たちの保護者らがボランティアとして学習活動や環境整備などを行う「学校応援団」の取り組みを紹介し、掲載している。

また、一般質問の記事はQRコードを掲載し、動画配信ページで視聴できるようにしている。

## ◇委員会の意見

「深谷市議会だより」の魅力はなんといっても表紙の鮮やかさ、またポストカードにできそうな写真の美しさである。深谷市の魅力を最大限に引き出し、つい手に取ってみたいくなるような表紙に対する色遣いのこだわりは、是非とも参考にしていきたい。

そして徹底した市民の目線での広報紙づくりを意識されており、編集委員会に印刷業者が入り、プロの目線を入れながら一緒に作り上げていくという方法と併せて、近隣自治体との勉強会および出版社への研修会参加などの努力が、完成度の高さに繋がっていると感じた。

また、記事中で強い言葉や冷たい言葉を文字にするときは、やわらかな色で表現するよう心がけているというこだわりには感心し、意識の高さに驚いた。しかしながら深谷市の議会だより編集委員の皆様も、嬉野市議会だよりの編集体制および編集方法の完成度には驚かれており、研修中盤からは、互いに質疑応答という形で同じ課題や問題点について深く議論ができたことが今研修において大きな収穫であった。

最後に一般質問におけるQRコードの掲載においては、当然予算もかかることもあり、費用対効果も含めた今後の課題として検討していきたい。